

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 助教

氏名 糊澤共生

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・・毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

動物衛生学分野の教員として、生産獣医療に関わる分野の教育を担当している。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
家畜衛生学実習	獣医学科	必修	4	138
産業動物臨床実習	獣医学科	必修	5	129
卒業論文	獣医学科	必修	6	3
家畜衛生学Ⅰ	獣医学科	必修	4	138
獣医畜産管理学	獣医学科	選択	3	147
産業動物基礎臨床実習	獣医学科	選択	1	128
牧場実習	獣医学科	必修	2	136
産業動物アドバンス実習	獣医学科	選択	6	2
獣医学特論Ⅰ	獣医学科	必修	5	5
獣医学特論Ⅱ	獣医学科	必修	6	6
卒業論文	動物応用科学科	必修	4	1

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

動物衛生学は産業動物をはじめとした動物の疾病予防と健康増進を図る応用獣医学であるが、社会情勢や疾病の多様化、飼養形態の変遷などにより、課題は常に変化している。ここ数年は、海外飼料の不作や新型コロナウイルス感染症、ウクライナの情勢不安などを背景に飼料価格や燃料費等、各種経営費用が高騰しており、価格安定の目途はつかず、多くの畜産農家が離農せざるを得なくなる現状が続いている。このことは、歴史的に見ても戦後日本において大きく成長してきた畜産の大きな変換点になると思われる。常に化する情勢の中で、安全な食料の安定供給に畜産が果たす役割は大きく、そこで獣医師に求められる役割も今後さらに増えていくと考える。複合的な問題の解決には基礎的な動物衛生学の概念、方法論の理解がベースとして重要となるので、大学教育において動物衛生学の考え方の根本である疾病制御や飼養衛生についてしっかりと学ぶことは、社会のニーズに応える獣医師の育成に必要不可欠である。動物衛生学の基礎的な内容の理解と同様に、学びのその先に畜産現場や消費者、という具体的なイメージを学生のうちから意識することも重要であると考え。また、産業動物臨床の教育においては、実際の臨床症例では教科書通りではないことも多いので、一症例として同じ症例はなく、個々の症例から学び、その経験を積み重ねていくことの重要性を伝えることを目指す。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

基礎的な内容の理解を最も重視する。同時に、基礎的な知識が実社会でどのように生かされるかイメージできるように、関連した内容の現場での実情を伝える。実習では重要なテーマの記憶定着を図るため、学内飼養施設を使用して実際に測定等を行う。また、国家試験合格も重要な到達目標であるので、過去に出題された問題の解説も併せて行う。産業動物臨床の教育においては、正解が一つではないので、学生が自ら考える過程を尊重し、その過程をサポートするような教育を目指す。具体的には、鑑別診断を過不足なく引き出せるよう、必要となる関連知識の学習を促す。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

レポート課題、グループディスカッション、グループ発表、口頭試問の実施。

(2) ICTの教育活用

有

Azamoodleを利用したレポートの提出。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

実際の現場（臨床現場、畜産現場）での実例を交えて講義、実習を行う。

(2) 学生の理解度の把握

A

レポート課題や口頭試問、また学生からの質問内容を通して学生の理解度を把握することができた。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

レポート課題を出したり、参考となる資料を紹介した。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

レポート課題や口頭試問、また学生からの質問内容を通して学生の理解度を把握し、しっかりと時間を取って解説した。

(5) 双方向授業への工夫

A

レポート課題、グループディスカッション、グループ発表、口頭試問の実施。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

過去に出題のあった分野とその関連分野の解説を行った。また実習試験の問題形式は国家試験を想定した五者択一形式とした。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

実習内容について、待ち時間が多いとのコメントがあったため、実習の組み立てや内容を改善し、時間内に効率的かつ効果の高い学習ができるよう実習内容を充実させた。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

変更を加えた部分は改善したが、他にも改善点が見つかった。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

引き続き改善点の洗い出しを進め、班ごとの作業にかかる時間差を考慮した工夫や、より学習効果の高い実習内容について、改善できる対策を検討する。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

基礎的な学習内容の修得が成績向上に直結すると考えるので、内容を十分に理解することができるような教育を目指す。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

ほとんどの学生が履修科目の単位を取って最終的に国家試験に合格しているので、その点が学習成果である。学生からのフィードバックに関しては授業評価の欄と同様。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

参加している。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

私自身が獣医学教育を受けていた時代から10年以上が経過しているので、現在の獣医学教育に求められていることについて理解することから始める必要がある。獣医学教育の全体像を理解したうえで、担当分野である動物衛生学の位置づけ、その教育上の重要性をしっかりと把握する。学生に対しては、なぜ基礎的な学習内容の理解が不可欠であるのか、その先の応用例（実例）も併せて伝え、実社会をイメージしながら学習できるような講義、実習を目標とする。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

シラバス，學理，FD 研修会